

子ども・子育て会議委員からのご意見（抜粋）

- (1) 県内各市や類似都市における延長保育、休日保育、夜間保育、病児・病後児保育の実施か所数などを調べて欲しい。他市と比べて佐世保市は充実しているように思う。
⇒平成 25 年度実績、平成 26 年度見込（予算）、平成 27 年度以降の予定を調査し、分科会等で報告する。（別途調査予定）
- (2) 事前に送付されている資料は、事前に読み込んで会議に出席することが当然のことと考えている。会議は 2 時間という限られた時間のため、ポイントとなる部分の説明をお願いしたい。
⇒ご意見のとおり、ポイントを絞って説明する。
- (3) アンケート終了後、関係者に意見を求める機会が発生すると思うが、障がい者関連団体などの方々には是非参加していただきたい。
⇒関係者に対する「グループインタビュー」を行う予定であり、障がい者関連団体などの方々にも十分意見を伺いたい。
- (4) 放課後子ども教室について、事務局から「希望者が多ければ回数を増やしてもらいようお願いしても・・・」という発言があったが、コーディネーター同士の会話では、よく「いつになったらコーディネーターを辞められるのだろうか」という声を耳にする。このような実態も踏まえ、放課後子ども教室の運営そのものを見定める必要があると思い、事務局にも理解いただきたい。
⇒ご意見のとおり、コーディネーターや地域の実情等も踏まえ、担当課と協議・検討していきたい。
- (5) 新規事業の提案（①育ママ・育パパ応援事業（仮称）、②「パパノート」の作成）
①育ママ・育パパ応援事業（仮称）
行政が保護者支援のために限りなく保護者の補完をする事は、子どもの福祉や最善の利益に反すること。子育ては第一義的には保護者の責任である。しかしながら、核家族に育児の負担がかかり、育児能力が低下している状況を鑑み「親業訓練」を目的に、既存の講座を整理統合して、「育ママ・育パパ応援事業」として事業を組み替えて構造化すると共に充実強化する。育児の外注化に拍車がかからないようにする。
②「パパノート」の作成
長崎市が平成 25 年 8 月に「パパノート」を作成。パパの育児参加という考え方から「子育ての共同責任者＝育メン」に変え、少子化対策の一助とする。育ママ・育パパには未婚男女も含み、晩婚化への歯止めをかけるような仕掛けも行う。
⇒分科会において協議・検討していきたい。
- (6) 公立幼稚園の存続について
⇒新制度への対応と並行し、行政として検討する。
- (7) 児童クラブの分割・増築、将来を見据えた条例づくりについて
⇒分科会で必要に応じて協議していく。
- (8) 会議運営について
⇒限られた時間の中で十分な議論ができるよう配慮する。分科会についても十分機能するよう努めたい。